

# 第34回台日工学技術シンポジウム

研究第二部  
副部長

磯田 伸吾



## シンポジウム概要

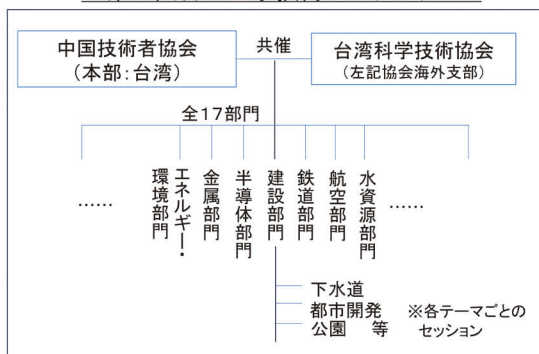
第34回台日工学技術シンポジウム（以下、本大会という）に参加しましたので、報告します。

本大会は、中国技術者協会（本部：台湾）およびその海外支部である台湾科学技術協会との共催として、日台両国間の産業技術交流を目的に隔年で開催されており、今回で34回目を迎えます（コロナにより4年ぶりの開催）。大会概要は次のとおりです。

- ・ 期間：2023年11月20日～23日
- ・ 場所：台湾（台北市・高雄市）
- ・ 行程
  - 1 日目：開会式 @台北市
  - 2 日目：現場視察@高雄市 ※テーマごとの活動
  - 3 日目：講演 @高雄市 ※テーマごとの活動
  - 4 日目：閉会式 @台北市

本大会および同時開催されたイベント構成を図-1に示します。本大会は、エネルギーや水資源、鉄道、航空、半導体等の全17部門を対象としており、下水道は建設部門に属します。日本からは、17部門に約50名が講師として参加しました。下水道分野では、（公社）日本下水道協会の岡久宏史理事長と筆者の2名が参加

■第34回台日工学技術シンポジウム■



■下水道産業発表会・下水道設備展@高雄市■

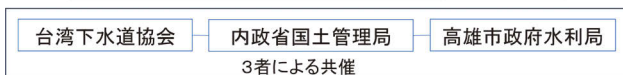


図-1 会議構成

しました。本大会のスローガンとして、「ネットゼロに向けた持続可能な社会の実現」が掲げられています。

また、本大会に加え、2,3日目は高雄市において、内政省国土管理局、台湾下水道協会、高雄市政府水利局の共催により、下水道産業発表会および下水道設備展が同一会場で開催され、台湾の行政関係者のほか、台湾の民間企業も多数参加しました。



## 講演概要

筆者の講演内容は「人口減少やビッグデータ・AI活用の時代における日本の下水道事業の戦略について」で、管路等の施設情報の電子化や、ICTおよびAI等の活用、自治体間連携（広域化・共同化）、官民連携など、幅広く日本の取り組みを紹介しました。また、岡久理事長からは、「下水道分野のGXについて」と題し、脱炭素や肥料化の取り組みが紹介されました。

その後、下水道産業発表会において、台湾側から、

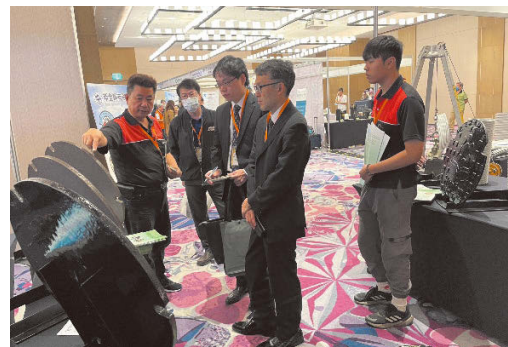


写真-1 講演の様子（上）、設備展の様子（下）

国のビジョンや、浸水対策の要素技術として水位計測・監視システム等の取り組みが紹介されました。ICTを活用した技術については、非常に先進的であり、日本と差が無いと感じられます。

設備展会場では、台湾国内の約20の企業・団体の資器材等がブース展示されていました。



## 現場視察

まず、高雄市の臨海水資源センターを訪問しました。工場地帯に位置する処理場であり、反応槽での処理後、MBR+RO膜による処理法を導入しており、処理水は周辺の工場で活用されています。価格は上水より割高ではありますが、渇水対策の一環とのことで、一定の需要が見込めるようです。

その後、台湾最大であり世界有数のコンテナ取扱港である高雄港や、台湾初の水平旋回式橋である大港橋を視察しました。



写真-2 処理場視察（上）、大港橋視察（下）



## おわりに

今回のイベントは、多くの産業分野にわたる大規模なものでした。台湾の下水道関係者においても、国土管理局の副局長や台湾下水道協会の理事長をはじめ、多数の方が出席し、各イベントにおいて非常に丁寧にご対応をいただきました。

下水道事情としては、台北市では日本と同レベルの整備水準ですが、全国的に見ると整備率は低い状況です。一方で、今後、さらなる人口減少社会を迎えるに当たり、持続可能な下水道は日本と共通のテーマとのことです。また、情報通信技術も発達しており、国として持続的な運営かつスマートなシステム構築を目指しています。

今後も継続した交流により、両国の下水道のさらなる発展が期待されます。



写真-3 集合写真（上）、懇親会の様子（下）